ユーザーズ・マニュアル

MICROLAB SMART KEYBOARD CONTROLLER



スペシャル・サンクス

| ディレクション | | | |
|---------------------------|------------------------|----------------------|-------------------|
| Frédéric BRUN | Philippe CAVENEL | Nicolas DUBOIS | |
| | | | |
| 開発 | | | |
| Sébastien COLIN | Lionel FERRAGUT | Nadine LANTHEAUME | Luc WALRAWENS |
| | | | |
| <u>デザイン</u> | | | |
| Baptiste LE GOFF | Axel HARTMANN | | |
| | | | |
| テスティング | | | |
| Arnaud BARBIER | | | |
| | | | |
| ベータ・テスティ | ング | | |
| Bernd WALDSTÄDT | Marco CORREIA | Jeff STONELEY | Clement BASTIAT |
| Charles Capsis IV | Ben EGGEHORN | Jeff CECIL | |
| Gustavo BRAVETTI | Chuck ZWICKY | Tony FLYING SQUIRREL | |
| | | | |
| <u> </u> | | | |
| Leo DER STEPANIANS | Minoru KOIKE | Charlotte METAIS | Holger STEINBRINK |
| (author) | Vincent LE HEN | Jose RENDON | Jack VAN |
| © ARTURIA SA – 2019 | – All rights reserved. | | |
| 26 avenue Jean Kuntz | zmann | | |
| 38330 Montbonnot-S | aint-Martin | | |
| rkance www.arturia.com | | | |

本マニュアルの情報は予告なく変更される場合があり、それについてArturiaは何ら責任を負いません。 許諾契約もしくは秘密保持契約に記載の諸条項により、本マニュアルで説明されているソフトウェアを供 給します。ソフトウェア使用許諾契約には合法的使用の条件が規定されています。本製品を購入されたお 客様の個人的な使用以外の目的で本マニュアルの一部、または全部をArturia S.A.の明確な書面による許 可なく再配布することはできません。

本マニュアルに記載の製品名、ロゴ、企業名はそれぞれの所有者の商標または登録商標です。

Product version: 1.0.0

Revision date: 17 July 2019

MicroLabをお買い上げいただきありがとうございます!

本マニュアルは、DAWソフトウェアやプラグインのコントロールに最適な、ポータブルでパワフルな MIDIコントローラー、Arturia **MicroLab**の機能や操作方法等についてご紹介します。

】 ♪: MicroLabはAnalog Lab Liteソフトウェアを付属していますが、本マニュアルではMicroLabの機能や操作方法を 中心にご紹介します。ソフトウェアの機能等につきましては、Analog Labのマニュアルをご参照ください。

パッケージ内容:

- MicroLabキーボードコントローラー (1台):本体底面にシリアルナンバーとアンロックコードがあります。この2つはMicroLabの製品登録時に必要となります。
- USBケーブル (1本)
- MicroLabクイックスタートガイド:こちらにもMicroLabのシリアルナンバーが記載されています。
- Analog Lab Liteの概要と、フル版のAnalog Labへのアップグレード方法が記載されたカード。リアルなサンプリングによるグランドピアノ音源ソフトウェアのUVI Grand Piano Model Dの概要が記載されたカード。
- MicroLabの製品登録方法と、Bitwig Studio 8-Trackのダウンロード方法が記載されたカード。

できるだけ早めに製品登録をお願いいたします! MicroLab本体底面にシリアルナンバーとアンロックコードが記載されています。この2つはネットでの製品登録時に必要となります。シリアルナンバーはクイックスタートガイドにも記載されています。

MicroLabの製品登録をすると、つぎのようなメリットがあります:

- Bitwig Studio 8-Trackのインストール時に必要なライセンスキーが入手できます。
- Analog Lab LiteとUVI Grand Piano Model Dのダウンロードが可能になります。
- MicroLabのユーザーマニュアルとMIDI Control Centerソフトウェアの最新版が入手できます。
- MicroLabオーナー様限定のスペシャルオファーが受けられます。
- Bitwig Studio 8-Trackのインストールファイルはこちらから入手できます: www.bitwig.com/8-track.html

使用上のご注意

仕様変更について:

本マニュアルに記載の各種情報は、本マニュアル制作の時点では正確なものですが、改良等のために仕様 を予告なく変更することがあります。

重要:

本機と付属ソフトウェアは、アンプやヘッドフォン、スピーカーで使用された際に、聴覚障害を起こすほ どの大音量に設定できる場合があります。そのような大音量や不快に感じられるほどの音量で本機を長時 間使用しないでください。難聴などの聴力低下や耳鳴りなどが生じた場合は、直ちに医師の診断を受け てください。

注意:

本ソフトウェアの機能や動作に関するお客様の知識不足による修理費用は、本ソフトウェアが仕様通り 動作していた場合、Arturiaの保証対象外となり、お客様がご負担していただくことになります。本ソフ トウェアをご使用の場合は、本マニュアルをよくお読みになり、修理等をご希望の際は事前に購入された 販売店等にご相談ください。

注意事項(以下の通りですが、これらに限定されるというわけではありません):

- 1. 本マニュアルをよくお読みになり、ご理解いただいた上でご使用ください。
- 2. 本機の使用方法に従ってご使用ください。
- 3.本機を清掃する場合は、最初に電源アダプターやUSBケーブルなどすべてのケーブル類を取り外してください。また、清掃は乾いた柔らかい布をご使用ください。ペンジンやアルコール、アセトン、テレピン油など有機溶剤を含むものは使用しないでください。液体クリーナーやスプレー洗剤、濡れた布も使用しないでください。
- 本機を浴室やキッチンシンク、プールなど水がある場所の近くや湿気の多い場所で使用しないでください。
- 5. 本機を落下する恐れのあるような不安定な場所に設置しないでください。
- 本機の上に重量物を置かないでください。また、本機を過熱から保護する開口部や通気孔を 塞がないでください。本機を暖房等の熱源の近くや風通しの悪い場所に設置しないでください。
- 本機を開けたり、本体内に異物を入れないでください。火災や感電の原因になることがあり ます。
- 8. 本機に液体をこぼさないでください。
- 修理の際は必ず正規のサービス・センターにご相談ください。お客様ご自身で本体を開けた りされますと、保証対象外となります。また、不正な改造や調整は感電を起こしたり、故障 の原因になります。
- 10. 雷の発生時には本機を使用しないでください。感電の原因になることがあります。
- 11. 本機を直射日光下に設置したり使用しないでください。
- 12. ガス漏れが発生している付近で本機を使用しないでください。
- 13. Arturiaおよび正規代理店は、本機の不適当な操作等が原因による破損やデータ損失につきまして責任を負いません。

もくじ

| 1. はじめに |
|----------------------------------|
| 2. オーバービュー |
| 2.1.接続する |
| 2.1.1. トップパネル |
| 2.1.2. ピッチ&モジュレーション・タッチストリップの詳細 |
| 2.1.3. シフト機能 |
| 2.2. サイドパネル |
| 3. MicroLabでAnalog Lab Liteを使う 8 |
| 3.1. オーディオとMIDIの設定 |
| 3.2. プリセットを演奏する |
| 3.3. プリセットの選択 |
| 4. MIDI Control Center |
| 4.1. 基本事項 |
| 4.1.1.動作環境 |
| 4.1.2. インストールとアプリケーションの位置10 |
| 4.1.3. 接続する |
| 4.1.4. MCCマニュアルはここでチェック1 |
| 4.2. MicroLabとMCC |
| 4.2.1. MCCの使い方1 |
| 4.2.2. MicroLabで使用できるコントロール類1 |
| 5. ソフトウェア・ライセンス契約 |
| 6. 規制関連情報 |

1. はじめに

MiniLabは、Arturiaで最もコンパクトでポータブルなUSB MIDIキーボードコントローラーです。ベロシ ティ対応25鍵キーボード、内蔵USBケーブルを装備し、Arturia Analog Lab Liteに完全対応しているほ か、他のソフトシンセのコントロールも可能です。移動の多いミュージシャンのための超軽量コンパクト キーボードとするために勢力を注いで開発しました。

優れたMIDIコントローラーとしてだけでなく、MicroLabはクラシックなシンセやキーボードサウンドを 集めたAnalog Lab Liteを付属しています。この2つの組み合わせにより、優れた機能と最高のサウンドを 備えた強力なハイブリッドシンセとしてご使用いただけます。Analog Lab Liteは、安価でシンプルな方法 でフルバージョンのAnalog Labにアップグレードすることができ、より膨大なサウンドを使用できるよ うになります。アップグレードは、こちらへアクセスしてください:www.arturia.com/analoglabupdate

MicroLabは、ピッチベンドとモジュレーションのコントロールにタッチストリップを採用しています。 ロープロファイルなこのコントローラーは、従来のホイールでの表現力はそのままに、ホイールでは不可 能な表現もできます。モジュレーションストリップには任意のMIDI CCをアサインでき、ピッチストリッ プでは'放すとその位置をホールド'するモードと、'自動でゼロに戻る'モードの2モードが選べます。

付属のMIDI Control Centerソフトウェアでは、MicroLabの様々な機能をコンピュータから直接、簡単に 設定できます。これにより、MicroLabを用途に併せてカスタマイズすることができます。

移動の多いミュージシャンや限られたスペースでの演奏が多いパフォーマーのために開発された MicroLabは、超軽量で見た目もナイスでポータブルなパッケージに、ディープな機能を豊富に搭載した1 台です。いつでもどこでも、音楽的アイディアを形にすることができます。

2. オーバービュー

2.1. 接続する

MicroLabでAnalog Lab Liteを使用できるようにセットアップするのは、素早く簡単に行なえます:

- 最初にAnalog Lab Liteをお使いのコンピュータにインストールし、製品登録とオーソライズ (アクティベーション)をします(方法は、Analog Labマニュアルのチャプター2をご参照くだ さい)。
- MicroLabをコンピュータに接続します。MicroLabはUSBバスパワーで動作しますので、コンピュータに接続するだけで使用できる状態になります。
- MicroLabはUSBクラスコンプライアンス機器ですので、コンピュータに接続するとドライバ ーが自動的にインストールされます。
- Analog Lab Liteを起動します。この時、MicroLabがMIDIコントローラーとして自動的に認 識されます。認識されない場合は、Analog Lab Liteの画面右下にあるMIDI Controllerメニュ ーからMicroLabを選択してください。



これでセットアップ完了です! Analog Lab Liteの最高のサウンドをお楽しみください!

2.1.1. トップパネル



- Shiftボタン:このボタンを使用すると、トップパネルの各機能の"もう1つの機能"にアクセスできます。その機能はボタンやストリップの下に青字で、キーボードの最低音から16鍵分に黒字でプリントされています。これらの機能を総称して"シフト機能"と呼びます。
- Holdボタン:このボタンを押すと、キーボードで弾いた音が長く伸びるサステイン機能が オンになります。ピアノのサステインペダルと同様の機能です。

♪: Holdボタンの動作は、MIDI Control Centerソフトウェアでオン/オフスイッチ的な動作(トグル)、または押している間だけオンになるモーメンタリースイッチ(ゲート)に設定できます。詳細はチャプター4でご紹介します。

- Octave / +ボタン:このボタンでキーボードの音域を上下4オクターブの範囲で変更できま す。デフォルト (初期設定)のオクターブから遠く離れた設定にすると、+またはーのボタン が早く点滅します。両方のボタンを同時に押すと、デフォルトのオクターブに戻ります。
- ピッチ&モジュレーション・タッチストリップ:2つのタッチセンス式ストリップはピッチ ベンドとモジュレーションMIDIメッセージをソフトシンセなどのソフトウェアに送信しま す。この2つを活用することで表現力のある演奏ができます。
- 5. **キーボード**:25鍵ベロシティ対応のスリム型キーボードです。MIDIノートメッセージを送信 してお使いのバーチャルインストゥルメントを演奏できます。

2.1.2. ピッチ&モジュレーション・タッチストリップの詳細



タッチセンス式ピッチ&モジュレーション・ストリップは突起物のないロープロファイルなコントロー ラーで、従来のホイール式での表現力に加えて、ホイール式では難しい表現もできます。ピッチベンド・ ストリップのセンター部分に触れてから上または下に指を動かすと、演奏しているピッチが高くなったり 低くなったりします。同様に、モジュレーション・ストリップに触れてから指を動かすと、演奏している 音にかかるモジュレーションの深さが変化します (上へ動かすほどモジュレーションが深くなります)。

MIDI Control Centerソフトウェアで、ピッチストリップの動作を"放すとゼロに戻る" (従来のスプリング が入ったホイール式ピッチベンドと同様の動作) または、放した時の位置をホールドする動作のどちらか に設定できます。Mod (モジュレーション) ストリップは任意のMIDI CCを選択できます。柔軟なコントロ ールができるよう、MIDI Control Centerでは送信するMIDIチャンネルごとにピッチ&Modストリップの 設定ができます。詳しくはチャプター4をご覧ください。

♪: ピッチベンド量とモジュレーションのタイプは、選択したプリセットでの設定によって変わります。プリセットによっては、ピッチベンドやモジュレーションが効かない設定になっているものもあり、その場合はMicroLabのピッチベンドやModストリップを操作しても何も変化しません。

2.1.3. シフト機能

MicroLabはコンパクトなサイズのため、コントロール類は少ししかありませんが、Shiftボタンを使って ボタンやストリップ、鍵盤に埋めこんである"もう1つの機能"を使用できます。それらは次の通りです:

2.1.3.1. キーボードのMIDIチャンネル選択:

Shiftボタンを押しながらキーボードのキーを押すとMicroLabが送信するMIDIチャンネルを選択できま す。チャンネル番号 (1-16) はキーボードの最低音から16鍵分にプリントされています。

!: このシフト機能で変更されるMIDIチャンネルは、MicroLabのキーボードからのMIDIメッセージのみです。ピッチ &Modストリップから送信されるMIDIチャンネルは、キーボードのMIDIチャンネルに追従する (キーボードのMIDIチャ ンネルを変更すると、ビッチ&Modストリップも同じく変更される)か、各ストリップで独自のMIDIチャンネルを設定 し、キーボードのMIDIチャンネルが変わっても変更されないようにすることができます。この設定はMIDI Control Centerソフトウェアで行います。MIDI Control Centerにつきましては、チャプター4をご覧ください。

2.1.3.2. コードモード

コードモードは、コードを設定してMicroLabのキーボードから指1本でトリガーできる機能です。弾いて 楽しいだけでなく、曲作りのクリエイティブな方法としても利用できます。

- MicroLabの電源投入時は、コードメモリーは空の状態です。
- コードを設定するには、ShiftとHoldボタンを押しながらキーボードでコードを押さえます (2音~10音)。この時、コードを一度に弾いても良いですし、1音ずつ足していくこともでき ます。ShiftとHoldボタンを押している間にキーボードで弾いた音はすべてコードの構成音 として記録され、Holdボタンが急速点滅してコードの設定中だということを表示します。
- ShiftとHoldボタンを放すと、Holdボタンの点滅が遅くなってコードモードがオンになっていることを表示します。この状態でキーボードで単音を弾くと、設定したコードを発音します。キーボードで色々な音程を単音弾きすると、それに沿ってコードがトランスポーズします。この時、単音弾きした音程がコードの最低音になります。

♪: コードの設定は最低2音が必要です (それ以下ですとコードにならないためです)。最低でも2音入力しないとコ ードは記録されません。

- コードモードを解除するには、ShiftとHoldボタンをもう一度押します。するとHoldボタンの点滅が止まり、キーボードは通常の動作モードに戻ります。
- 設定したコードはMicroLabの電源が入っている間は記憶しています。つまり、コードを設定してコードモードを解除しても、再びコードモードに入れば同じコードを設定し直すことなくすぐに使えます。この場合、コードモードに入るにはShiftとHoldボタンを押すだけで入れます(この時、キーボードを弾く必要はありません)。Holdボタンが点滅し、設定したコードをすぐに演奏できます。

♪: ベロシティはコード設定時には記録されません。その代わり、単音でコードをトリガーする時のベロシティが コードに適用されます。

2.1.3.3. プリセットの選択 (Analog Lab / Analog Lab Lite)

MicroLabでAnalog Lab Liteを使用する場合、Shiftボタンを押しながらOct - ボタンで1つ前の、Oct + ボタンで1つ先のプリセットを選択できます。ライブ時や手元にコンピュータをセッティングできない場合などに便利です。

!: この機能を使用するには、Analog Lab Liteの画面右下にあるMIDI ControllerがMicroLabに設定されている必要が あります。

2.1.3.4. タッチストリップでプリセットフィルターを選択する (Analog Lab / Analog Lab Lite)

MicroLabでAnalog Lab Liteを使用する場合、コンピュータのマウスやトラックパッドを使わずに、プリ セットのフィルタリング選択とプリセットフィルターのリストをスクロールすることができます。

- Shiftボタンを押しながらピッチベンド・ストリップを上または下にドラッグするとプリセットフィルターをスクロールします。
- 選択したフィルターのオン/オフは、Shiftボタンを押しながらピッチベンド・ストリップを タップします (この時はドラッグしません)。
- Shiftボタンを押しながらModストリップをドラッグすると、フィルタリングしたプリセット リストをスクロールします。
- 選択したプリセットをロードするには、Shiftボタンを押しながらModストリップをタップします (この時はドラッグしません)。

I: この機能を使用するには、Analog Lab Liteの画面右下にあるMIDI ControllerがMicroLabに設定されている必要が あります。

2.2. サイドパネル



MicroLabのサイドパネルには、MicroLabをコンピュータに接続するUSBタイプBコネクターがありま す。USBコネクターがリアパネルではなくサイドパネルにありますので、ラップトップと隙間なくセッテ ィングできます。セッティングするスペースが極端に狭い場合に、非常に便利です。

MicroLabには本体を1周できる長さのL字USBケーブルが付属しています。持ち運ぶ際にはMicroLab本体 周囲の溝にケーブルを入れ、コネクター部はサイドパネル面に磁石で固定できます。これで「USBケーブ ルがない!」という衝撃の事実に直面することがなくなります!

3. MICROLABでANALOG LAB LITEを使う

このチャプターでは、MicroLabでAnalog Lab Liteを使う方法についてご紹介します。ここでご紹介しま すAnalog Lab Liteの機能はごく基本的なもののみとなります。Analog Lab Liteの詳細につきましては、 Analog Labのユーザーマニュアルをご参照ください。

3.1. オーディオとMIDIの設定

Analog Lab Liteの起動後に最初に行うのは、オーディオ出力とMicroLabからのMIDIを受信する設定です。

Analog Lab LiteのドロップダウンメニューからPreferencesを選び、プリファレンス画面を開きます。この操作は、[Command]+[,]でも実行できます。

この操作でAudio & MIDI Settings画面が開き、そこでオーディオ出力デバイスを選択できます。Playボタ ンをクリックしてみましょう:オーディオの設定が正しければ、サイン波の発振音が聴こえます。聞こえ ない場合は、オーディオドライバーを正しく選択しているかや、ヘッドフォンやスピーカーが正しく接続 されているか、パワードスピーカーでしたら電源が入っているかをチェックしてください。

| audio Set | tings | III MIDI Setti | ngs |
|-----------------|--------------------------|------------------|------------------|
| Device | ¢ CoreAudio | MIDI Devices | Arturia MicroLab |
| | Built-in Output | Tempo | 120.0 BPM - + |
| Buffer size | \$ 256 samples (5.8 ms) | | |
| Sample rate | ¢ 44100 Hz | | |
| Test Tone | Play | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| SETTINGS | | | × |
| 👌 Audio Setting | js | III MIDI Setting | S |
| Device | ¢ ASIO | MIDI Devices | Arturia MicroLab |
| | Arturia ASIO Driver | Tempo | 120.0 BPM - + |
| Output channels | Main/Line 1 + 2 | | |
| | Line 3 + 4 | | |
| Buffer size | \$ 512 samples (10.7 ms) | | |
| Sample rate | \$ 48000 Hz | | |
| | Show Control Panel | | |
| Test Tone | Play | | |
| | | | |

MicroLab (あるいはMIDIコントローラー) がコンピュータに接続されている場合、Audio MIDI Settings画 面に"MIDI Devices"のセクションが表示されます。このセクションで、"Arturia MicroLab"と表示されて いるチェックボックスにチェックを入れると、MicroLabでAnalog Lab Liteを演奏できるようになりま す。

設定は以上です!これでMicroLabでAnalog Lab Liteが使用できます。

3.2. プリセットを演奏する

MicroLabのキーボードを弾けば、Analog Lab Liteの音が出ます。ピッチとModストリップで音に変化を 付けたり、Octave + / -ボタンでキーボードの音域を変更できます。Holdボタンを押すとピアノのサステ インペダルのように音が長く伸び、コード機能を使用すれば複雑なコードを設定してワンフィンガーで 演奏できます。MicroLabの各ボタンの機能につきましては、チャプター2のトップパネルをご覧ください。

3.3. プリセットの選択

コンピュータのマウスやトラックパッドを使えば、いつでもAnalog Lab Liteのプリセットを切り替える ことができます。しかしMicroLabの便利なシフト機能を使えば、コンピュータに触れずにもっと早くプ リセットを切り替えられます。例えば、ライブでコンピュータが手の届くところにセッティングできなか った場合などに便利です。詳しくは、チャプター2のシフト機能をご覧ください。

4. MIDI CONTROL CENTER

4.1. 基本事項

Arturia MIDI Control Center (MCC) は、Arturiaのハードウェア製品の各種コントロール (鍵盤、パッド、 ノブ、ボタン、スライダー等) の動作設定が行える強力なソフトウェアで、用途に合わせてハードウェア 製品を最適化することができます。

このチャプターでは、MicroLabに関連したMCCの機能のみをご紹介します。そのため、MCCの機能の多 くは本マニュアルではご紹介*しません*。それは、MicroLabが超ポータブル製品で機能も最小限なため、 MCCの強力な機能(例えばプリセット管理機能など)を使用していないからです。MCCのすべての機能の 詳細につきましては、MCCのユーザーマニュアルをご参照ください(このチャプターのMCCマニュアルは ここでチェックをご覧ください)。

!: MCCはほとんどのArturia機器で使用できますので、すでにArturia製品をお持ちの方は、以前のパージョンがコン ビュータにインストールされているかも知れません。その場合、MCCがMicroLabで使用できる最新パージョンかどう かをお確かめください。

4.1.1. 動作環境

Win 7以降 (64ビット) 🗳 10.10以降

- ・ 2GB以上のRAM
- 2GHz以上のCPU

4.1.2. インストールとアプリケーションの位置

MIDI Control Centerインストーラーをダウンロードしましたら、インストーラーをダブルクリックし、 表示される指示に従ってインストール作業を進めてください。

インストールが完了すると、MIDI Control Centerアプリケーションは他のArturiaアプリケーションと同 じ位置に入ります。Windowsの場合、MCCはスタートメニューを開くと見えます。macOSの場合、MCC はアプリケーション/Arturiaフォルダに入ります。

4.1.3. 接続する

MicroLabをUSBケーブルでコンピュータに接続し、MIDI Control Centerを起動します。

MicroLabが'Connected' (接続されたデバイス) のリストに表示されます:



4.1.4. MCCマニュアルはここでチェック

MIDI Control Centerのマニュアルはヘルプメニューからご覧になれます:

| View | Help | |
|---------|------|-------------|
| | | Search |
| rollerM | | Open Manual |
| | | |

MCCユーザーマニュアルでは、全機能のご紹介と、MCCを使用する上で重要な用語の説明もしています。 MCCの詳細について調べたい時などにご活用ください。

4.2. MicroLabとMCC



MCCでのMicroLabのパラメーターエディットは簡単です。MicroLab本体が画面に表示され、その下に各種パラメーターが表示されます。デバイスメモリーとローカルテンプレートが画面左のコラムに表示されますが、MicroLabは機能が最小限なため、これらの機能はMicroLabを使用する上では必ずしも必要なものではありません。そのためこの2つの機能につきましては本マニュアルでは触れません。

4.2.1. MCCの使い方

• エディットしたいMicroLabの機能を選択します。画面のMicroLab上にマウスオーバーした時に表示される赤いボックスが、エディットできます (下図参照)。



 赤いボックスをクリックして選択します。選択されたコントロールが赤くハイライト表示に なります (下図参照)。



• 選択したコントロールのパラメーターエディットは、画面下部のセクションで行います。



用途に合わせてパラメーターを調節します。ドロップダウンメニューを開いてその中から設定を選ぶものもあれば、ノブをクリック+ドラッグして値を変更するものもあります。ノブの下に表示されている値をダブルクリックして数値を直接入力することもできます。

4.2.2. MicroLabで使用できるコントロール類

MicroLabの以下のコントロール類の動作をエディットできます:

- キーボード
- ・ Holdボタン
- ピッチストリップ
- Modストリップ

4.2.2.1. キーボード

| Keyboard | |
|--------------------|--|
| Channel | |
| Key Velocity Curve | |

Channel: MicroLabのキーボードが送信するMIDIチャンネル (1-16) を選択します。この機能は例えば、バーチャルインストゥルメントを特定のMIDIチャンネルにのみ反応するように設定した場合に便利です。インストゥルメントごとに別々のMIDIチャンネルを設定すれば、チャンネルを切り替えるだけでインストゥルメントを弾き分けることができます。

♪: MIDIチャンネルの変更はMCCを使用せず、シフト機能を使用してMicroLab本体でも行えます。操作方法はチャ ブター2のシフト機能をご覧ください。

Key Velocity Curve:ベロシティレスポンスカーブを選択することで、MicroLabのキーボードの"感度"や"フィール"を設定できます。用途や好みに応じて重めのタッチやライトタッチなど4種類のカーブ(リニア、ログカーブ、エクスポネンシャル、フル)から1つを選べます。ひと通り試してみてベストなものをお選びください。

4.2.2.2. Holdボタン

| Hold | | | |
|------|--------|------------------------------|--|
| | Option | Toggle ▼ ✓ Toggle Gate | |

 HoldボタンはOptionドロップダウンメニューで、オン/オフスイッチ (トグル) 動作またはモ ーメンタリースイッチ (ゲート) のどちらかに設定できます。*トグル*というのは、Holdボタン を1回押してサステインモードに入り、再び押すとモードが解除になる動作を指します。ゲ ートというのは、Holdボタンを押している間だけサステインモードに入り、ボタンを放すと オフになる動作を指します。用途や好みに合わせて選択できます。

4.2.2.3. ピッチストリップ

| Pitch Bend | | |
|------------|------------|---|
| Mode | Pitch Bend | |
| Option | Standard | |
| Channel | 1 | • |

- Modeドロップダウンメニュー:ピッチストリップのオン/オフを切り替えます。デフォルトのPitch Bendという設定は、ピッチストリップをピッチベンドとして使う設定です。この設定をOffにすると、ピッチストリップが動作しない状態になります。
- ・ Optionメニュー:ピッチストリップを放した時の動作を設定します。多くのシンセサイザーやMIDIコントローラーで見られる一般的なピッチベンドホイールにはスプリングが入っていて、放すとセンターポジションに自動的に戻るのが一般的です。デフォルトのStandardがその設定で、ピッチストリップを放すとソフトウェア・インストゥルメントのピッチコントロールがセンターポジションに自動的に戻ります。ピッチストリップを放した位置でホールドさせたい場合は、この設定をHoldにします。
- Channelドロップダウンメニュー:ピッチストリップが送信するMIDIチャンネルを選択します。1-16のいずれかに設定した場合、MicroLabのキーボードのMIDIチャンネルとピッチストリップのMIDIチャンネルが一致しない設定(キーボードはチャンネル1でピッチストリップはチャンネル3など) にできます。常にキーボードと同じMIDIチャンネルに設定したい場合は、ドロップダウンメニューからKeyboardを選択します。

4.2.2.4. Modストリップ

| Modulation | | | |
|------------|--|-----------|-----------|
| Mode | | Min Value | Max Value |
| Channel | | Q | |
| CC Number | | | |

- Modeドロップダウンメニュー:Modストリップのオン/オフを切り替えます。デフォルトの Controlという設定は、Modストリップをモジュレーションコントローラーとして使用する 設定です。この設定をOfficするとModストリップが動作しない状態になります。
- Channelドロップダウンメニュー:Modストリップが送信するMIDIチャンネルを選択します。1-16のいずれかに設定した場合、MicroLabのキーボードのMIDIチャンネルとModストリップのMIDIチャンネルが一致しない設定(キーボードはチャンネル1でModストリップはチャンネル5など)にできます。常にキーボードと同じMIDIチャンネルに設定したい場合は、ドロップダウンメニューからKeyboardを選択します。
- CC Number: ModストリップでコントロールするMIDI CCナンバーを選択します。数字の後ろにある単語は、そのMIDI CCでコントロールできるMIDI規格で規定されているパラメーター名です。

】 ♪: すべてのソフトウェア・インストゥルメントがMIDI規格通りにCCナンバーを割り当てているわけではなく、一 般的ではない用途にCCナンバーを割り当ててるものもあります。ModストリップにMIDI CCを割り当てる際は、お使い のソフトウェア・インストゥルメントの説明書などでコントロールしたいパラメーターのCCナンバーをご確認ください。

• Min Value / Max Value: Modストリップでコントロールできる最小値と最大値を設定します。デフォルトの0 (最小値) と127 (最大値) は、Modストリップでパラメーターの最小値から最大値までの全域をコントロールできるという意味です。例えば最小値を50に、最大値を100というようにコントロールできる範囲を狭くすると、Modストリップの最下部に触れた時の値が100になり、その間をドラッグできるという設定になります。

■ !: Modストリップを逆方向 (上へドラッグするとパラメーターの値が小さくなる) に設定したい場合は、Min=127、 Max=0というように設定します。

5. ソフトウェア・ライセンス契約

ライセンシー料(お客様が支払ったアートリア製品代金の一部)により、アートリア社はライセンサーとしてお客様(被ライセンサー)にソフトウェアのコピーを使用する非独占的な権利を付与いたします。

ソフトウェアのすべての知的所有権は、アートリア社(以下アートリア)に帰属します。アートリアは、本 契約に示す契約の条件に従ってソフトウェアをコピー、ダウンロード、インストールをし、使用すること を許諾します。

本製品は不正コピーからの保護を目的としプロダクト・アクティベーションを含みます。OEMソフトウェアの使用はレジストレーション完了後にのみ可能となります。

インターネット接続は、アクティベーション・プロセスの間に必要となります。ソフトウェアのエンドユ ーザーによる使用の契約条件は下記の通りとなります。ソフトウェアをコンピューター上にインストール することによってこれらの条件に同意したものとみなします。慎重に以下の各条項をお読みください。こ れらの条件を承認できない場合にはソフトウェアのインストールを行わないでください。この場合、本 製品(すべての書類、ハードウェアを含む破損していないパッケージ)を、購入日から30日以内にご購入 いただいた販売店へ返品して払い戻しを受けてください。

1. ソフトウェアの所有権 お客様はソフトウェアが記録またはインストールされた媒体の所有権を有しま す。アートリアはディスクに記録されたソフトウェアならびに複製に伴って存在するいかなるメディア及 び形式で記録されるソフトウェアのすべての所有権を有します。この許諾契約ではオリジナルのソフトウ ェアそのものを販売するものではありません。

2. 譲渡の制限 お客様はソフトウェアを譲渡、レンタル、リース、転売、サブライセンス、貸与などの行 為を、アートリア社への書面による許諾無しに行うことは出来ません。また、譲渡等によってソフトウ ェアを取得した場合も、この契約の条件と権限に従うことになります。本契約で指定され、制限された権 限以外のソフトウェアの使用にかかる権利や興味を持たないものとします。アートリア社は、ソフトウェ アの使用に関して全ての権利を与えていないものとします。

3. ソフトウェアのアクティベーション アートリア社は、ソフトウェアの違法コピーからソフトウェアを 保護するためのライセンス・コントロールとしてOEMソフトウェアによる強制アクティベーションと強 制レジストレーションを使用する場合があります。本契約の条項、条件に同意しない限りソフトウェアは 動作しません。このような場合には、ソフトウェアを含む製品は、正当な理由があれば、購入後30日以 内であれば返金される場合があります。本条項11に関連する主張は適用されません。

4. 製品登録後のサポート、アップグレード、レジストレーション、アップデート 製品登録後は、以下の サポート・アップグレード、アップデートを受けることができます。新バージョン発表後1年間は、新バ ージョンおよび前バージョンのみサポートを提供します。アートリア社は、サポート (ホットライン、ウ ェブでのフォーラムなど)の体制や方法をアップデート、アップグレードのためにいつでも変更し、部分 的、または完全に改正することができます。製品登録は、アクティベーション・プロセス中、または後に インターネットを介していつでも行うことができます。このプロセスにおいて、上記の指定された目的の ために個人データの保管、及び使用(氏名、住所、メール・アドレス、ライセンス・データなど)に同意 するよう求められます。アートリア社は、サポートの目的、アップグレードの検証のために特定の代理 店、またはこれらの従事する第三者にこれらのデータを転送する場合があります。

5. 使用の制限 ソフトウェアは通常、数種類のファイルでソフトウェアの全機能が動作する構成になって います。ソフトウェアは単体で使用できる場合もあります。また、複数のファイル等で構成されている場 合、必ずしもそのすべてを使用したりインストールしたりする必要はありません。お客様は、ソフトウ ェアおよびその付随物を何らかの方法で改ざんすることはできません。また、その結果として新たな製 品とすることもできません。再配布や転売を目的としてソフトウェアそのものおよびその構成を改ざん するすることはできません。

6. 著作権 ソフトウェア及びマニュアル、パッケージなどの付随物には著作権があります。ソフトウェア の改ざん、統合、合併などを含む不正な複製と、付随物の複製は固く禁じます。このような不法複製がも たらす著作権侵害等のすべての責任は、お客様が負うものとします。

7. アップグレードとアップデート ソフトウェアのアップグレード、およびアップデートを行う場合、当 該ソフトウェアの旧バージョンまたは下位バージョンの有効なライセンスを所有している必要がありま す。第三者にこのソフトウェアの前バージョンや下位バージョンを譲渡した場合、ソフトウェアのアップ グレード、アップデートを行う権利を失効するものとします。アップグレードおよび最新版の取得は、ソ フトウェアの新たな権利を授けるものではありません。前バージョンおよび下位バージョンのサポート の権利は、最新版のインストールを行った時点で失効するものとします。 8. 限定保証 アートリア社は通常の使用下において、購入日より30日間、ソフトウェアが記録されたディ スクに瑕疵がないことを保証します。購入日については、領収書の日付をもって購入日の証明といたしま す。ソフトウェアのすべての黙示保証についても、購入日より30日間に制限されます。黙示の保証の存続 期間に関する制限が認められない地域においては、上記の制限事項が適用されない場合があります。アー トリア社は、すべてのプログラムおよび付随物が述べる内容について、いかなる場合も保証しません。プ ログラムの性能、品質によるすべての危険性はお客様のみが負担します。プログラムに瑕疵があると判明 した場合、お客様が、すべてのサービス、修理または修正に要する全費用を負担します。

9. 賠償 アートリア社が提供する補償はアートリア社の選択により (a) 購入代金の返金 (b) ディスクの交換 のいずれかになります。お客様がこの補償を受けるためには、アートリア社にソフトウェア購入時の領収 書をそえて商品を返却するものとします。この補償はソフトウェアの悪用、改ざん、誤用または事故に起 因する場合には無効となります。交換されたソフトウェアの補償期間は、最初のソフトウェアの補償期間 か30日間のどちらか長いほうになります。

10. その他の保証の免責 上記の保証はその他すべての保証に代わるもので、黙示の保証および商品性、特定の目的についての適合性を含み、これに限られません。アートリア社または販売代理店等の代表者またはスタッフによる、口頭もしくは書面による情報または助言の一切は、あらたな保証を行なったり、保証の範囲を広げるものではありません。

11. 付随する損害賠償の制限 アートリア社は、この商品の使用または使用不可に起因する直接的および間 接的な損害(業務の中断、損失、その他の商業的損害なども含む) について、アートリア社が当該損害を示 唆していた場合においても、一切の責任を負いません。地域により、黙示保証期間の限定、間接的または 付随的損害に対する責任の排除について認めていない場合があり、上記の限定保証が適用されない場合が あります。本限定保証は、お客様に特別な法的権利を付与するものですが、地域によりその他の権利も行 使することができます。

6. 規制関連情報

FCC規制情報 (USA)

重要な注意:本製品を改造しないでください。

本製品は、本マニュアルに記載の条件を満たした場合にのみ、FCC規則に準拠します。本製品の使用に際 して、FCC規則に反する改造または変更を本製品に行うことは、Arturia社および輸入代理店は一切承認い たしません。

重要: 本製品をアクセサリー等関連製品やその他の機器に接続する場合は、高品質のシールドケーブル をご使用ください。また、本製品にケーブル類が付属している場合は、その用途に於いて必ずそれをご 使用ください。本製品の設置は、ユーザー・マニュアル等に記載されている内容に従って行ってくださ い。それ以外の方法等で本製品をアメリカ合衆国内で使用する場合は、使用者の権限が無効になる場合 があります。

注意: 本製品は、FCC規則第15章に従ってクラスBデジタル機器の規制値に適合していることが試験によ り確認されています。この各種規制値は、本製品を一般家庭で使用する際に生じる有害な障害に対して合 理的な保護となるよう策定されています。本製品は、無線周波数帯域のエネルギーを発生し、使用し、放 射することがあります。また、本製品のユーザーズ・マニュアルに従わずに本製品を設置した場合は、他 の電子機器に有害な干渉を及ぼす原因となる場合があります。本製品の電源をオンにしたりオフにしたり することで、本製品がそのような有害な干渉を及ぼす原因であると確認された場合は、次の対処法を行っ てください:

- 本製品または干渉の影響を受けている機器の設置位置を変更する。
- 本製品と干渉の影響を受けている機器のコンセントを別の系統に分ける、またはACラインフィルタを使用する。
- ラジオやテレビが干渉を受けている場合は、それらの位置やアンテナの向きを変更する。ア ンテナの引込み線が300Ωのリボンフィーダー線だった場合は、引込み線を同軸ケーブルに 変更する。
- これらの対処法が効果的でなかった場合は、本製品を購入された販売店やメーカーまたは輸入代理店にご相談ください。

なお、上記の記載内容は、アメリカ合衆国にディストリビュートされた製品にのみ適用されます。

カナダ

注意: 本製品はカナダ国内の干渉機器基準で要求されるすべての規制に適合したクラスB デジタル機器 です。

AVIS: Cet appareil numérique de la classe B respecte toutes les exigences du Règlement sur le matériel brouilleur du Canada.

ヨーロッパ



本製品は、指令89/336/EECの要求基準に適合しています。

本製品が静電気放電の影響により適切に動作しない場合は、本製品の電源を入れ直してください。